

令和6年度幡多福祉保健所管内栄養士ネットワーク災害研修の報告

日 時：令和6年7月17日（水）13：30～16：00

場 所：四万十市防災センター 2階研修室

参加者：48名（学校や病院等に所属する栄養士や危機管理部署の事務職等）

内 容：詳細は下記表のとおり。

内 容	<u>1 開会（13:30～13:35）</u> 開会あいさつ（ネットワーク会長）、司会（保健所担当者）
	<u>2 報告及び情報提供（13:35～14:55）</u> ○報告 テーマ「豊後水道地震時の対応と今後について」 特定医療法人長生会 大井田病院 宿毛市健康推進課 四万十市立市民病院 四万十市子育て支援課 テーマ「能登半島地震の活動報告」 四万十市国民健康保険西土佐診療所 ○情報提供 大塚製薬担当者による備蓄食品商品説明 他社（※）については、商品とパンフレット展示のみ ※黒潮町缶詰製作所、中澤氏家薬業、伊那食品工業、高知タマモ、四国乳業、池田商店 <u>3 情報交換会（14:55～15:50）</u> ○備蓄食試食会 ・アルファ化米と魚の缶詰（特定原材料不使用）の混ぜご飯／おでんの缶詰／保存用パン／カロリーメイト（ゼリータイプ） 等 ・災害時を想定し、プラスチックトレーにラップを敷いて試食した。 ○グループワーク（豊後水道地震対応の振り返り等） ・A グループ（学校・保育所） ローリングストックは重要／誰でも備蓄食の対応ができるようにしないと／ 厨房設備の稼働可否のチェックリストが必要 等 ・B グループ（老健・老福） エレベータやガス使用不可時のマニュアル化が必要・その周知も／ 倉庫の鍵がどこにあるか周知すべき／調理員不在時備蓄食を使えるか課題／ 震度〇以上で参集との規定が曖昧 ・C グループ（老福） 浄化装置を購入した施設がある（期限切れの水を使える）／ チューブタイプののろみ茶の購入が課題

	・D グループ（病院） 栄養課で災害訓練を実施（アクションカードで調理員と連携）／ 分散備蓄できていないところがあり課題／ディスポ食器の使用期限の確認が必要 ・E グループ（行政） 台風の方が地震よりも起きやすく複数施設でトラブルがおきるため対応マニュアルが必要／ 栄養士は司令塔として重要な役割を担う／防災主管課との連携が大切 ・F グループ（行政） 黒潮町では年1回住民主体の災害訓練あり／ 試食会の缶詰の魚とアルファ化米を混ぜて食べるという発想が新鮮だった <u>4 閉会（16:00）</u> 閉会のあいさつ（ネットワーク副会長）
振り 返 り お よ び 今 後 に つ い て	<u>振り返り</u> ○地震対応報告 自施設に置き換えて問題点を検討できたとの感想が多く、実際に災害対応経験のない施設にとっても有意義なものにできた。 ○グループワーク 備蓄食の活用方法など、他施設を参考に自施設でも取組を検討していただけた、各施設の良い部分を共有できる良い機会となった。 ○備蓄食の展示及び試食会 アレルギーフリーのものなど自施設での選定に活かしたいとの意見があり、給食施設の特色にあわせた情報提供ができた。 <u>今後の災害研修について</u> ○今後の実施について アンケートからも災害研修のニーズが高いことがわかったため、定期的に開催していきたい。 ○グループワークについて 聞きたいことが多く時間が足りなかったとの声もあったため、もう少し時間を増やす、あらかじめ議題のアンケートをとる、など検討が必要である。 ○備蓄食の展示および試食会について 価格表があれば選定しやすいとの声もあったため、協力会社に提供してもらえるか、検討が必要である。 大塚製薬の商品説明については、備蓄食の試食と平行していたため、十分に説明が伝わっていなかった可能性があり、プログラムの進め方等検討する必要がある。 <u>今後の栄養士ネットワークの取組における要望</u>

	看取り期、嚥下困難者の食事など、喫食者に合わせた食事提供について勉強会をしたいという声が多かった。また、アレルギー対応についての勉強会がしたいとの声もあり、今後の取組内容について検討が必要である。
--	---